

# みずほマーケット・トピック(2014年3月14日)

## 週末版

内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	3. ※13~19日まで筆者休暇のため、マーケット・トピックはお休みとさせていただきます。	

### 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は週後半に急落する展開。週初10日に103円台前半でオープンしたドル/円は、先週末の米2月雇用統計の良好な結果を受けたドル買いの流れを引き継ぎ、103円台前半で底堅く推移。11日にかけては、一時週高値となる103.43円をつけるも、中国の景気減速懸念や理財商品規制を背景に銅価格が急落するとリスク回避姿勢が強まり、円買い戻しの動きから103円割れまで下落する展開。12日にかけても円買い優勢地合いの中、ドル/円は102円台半ばまで下落するも、その後はショートカバーなどが入る中で102円台後半まで回復。13日は、米2月小売売上高の良好な結果を好感し、ドル/円は一時102円台後半まで強含むも、ケリー米国務長官の「クリミアの住民投票が実施されれば、17日には重大な措置を発動する」とのコメントに米10年金利が2.6%台前半まで急低下すると、ドル/円は一時週安値となる101.54まで急落した。本日にかけてやや値を戻すものの、ドル/円は101円台後半で上値重く推移している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は行って来い展開。週初10日に1.38台後半でオープンしたユーロ/ドルは、中国の景気減速懸念やウクライナ情勢を警戒し、株式市場が軟調となる中、1.38台後半で上値重く推移。11日には、ECB高官の「必要なら利下げもしくは量的緩和という形でとり得る政策手段がある」との発言で追加緩和期待が再浮上しユーロ売りが強まると、ユーロ/ドルは一時週安値となる1.3834まで値を下げた。だが、12日にショイブレ独財務相が「デフレの兆候はみられない」と発言すると追加緩和期待が後退し、ユーロ/ドルは1.39台を回復。13日にかけてもユーロ買い優勢地合いの中、ユーロ/ドルは一時週高値となる1.3967まで上昇するも、その後はウクライナ情勢が緊迫化する中、ドラギ ECB総裁がデフレ懸念が強まった場合には追加的な金融緩和の準備があるとの見解を示したことも相俟って、ユーロ/ドルは1.38台半ばまで急反落。本日にかけて若干値を戻すも、1.38台後半で上値重く推移している。

### 今週のおもな金融市場動向

		前週末	今 週			
		3/7(Fri)	3/10(Mon)	3/11(Tue)	3/12(Wed)	3/13(Thu)
ドル/円	東京9:00	103.04	103.18	103.26	102.85	102.83
	High	103.77	103.40	103.43	103.10	102.86
	Low	102.84	102.61	102.84	102.55	101.54
	NY 17:00	103.25	103.27	103.02	102.76	101.85
ユーロ/ドル	東京9:00	1.3863	1.3877	1.3876	1.3856	1.3903
	High	1.3915	1.3897	1.3879	1.3915	1.3967
	Low	1.3853	1.3862	1.3834	1.3843	1.3846
	NY 17:00	1.3875	1.3876	1.3860	1.3902	1.3869
ユーロ/円	東京9:00	142.83	143.20	143.29	142.55	142.95
	High	143.79	143.61	143.44	142.95	143.38
	Low	142.55	142.46	142.62	142.22	140.71
	NY 17:00	143.29	143.29	142.77	142.82	141.25
日経平均株価	15,274.07	15,120.14	15,224.11	14,830.39	14,815.98	
TOPIX	1,236.97	1,227.61	1,233.21	1,206.94	1,203.46	
NYダウ工業株30種平均	16,452.72	16,418.68	16,351.25	16,340.08	16,108.89	
NASDAQ	4,336.22	4,334.45	4,307.19	4,323.33	4,260.42	
日本10年債	0.63%	0.63%	0.64%	0.63%	0.64%	
米国10年債	2.79%	2.78%	2.77%	2.73%	2.64%	
原油価格(WTI)	102.58	101.12	100.03	97.99	98.20	
金(NY)	1,338.20	1,341.50	1,346.70	1,370.50	1,372.40	

### ドル/円相場の動向



### ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 来週は 18～19 日に開催される FOMC に注目が集まる。先週末に発表された米 2 月雇用統計は FRB による tapering 継続の可能性を高める結果となった。非農業部門雇用者数は前月比 17.5 万人増と前月の同 11 万人増から反発。失業率は 6.7% で 1 月の 6.6% から予想外の悪化となったが、労働参加率の上昇が主因であり、ネガティブな内容ではない。総じて米国経済の底堅さを示す内容と言え、先に発表されたページブックの楽観的な見通しも合わせて考えれば、FRB は前月に引き続き、資産買い入れ額の 100 億ドル縮小を決定する可能性が高い。但し、tapering 継続自体は既に市場でのコンセンサスとなっているため、今会合での焦点はフォワードガイダンスの行方となろう。前回 FOMC 議事要旨からは定量的閾値の継続や定性的な条件の追加など様々な議論があった様子が伺えるが、直近のメンバーの発言から、FOMC 内部は質的なガイダンスの採用へと傾いている印象である。今会合中に議論がまとまるかは不透明で、S. フィッシャー氏が副議長に就任すると思われる次回以降に結論が持ち越される可能性も高い。なお、今回は四半期経済見通しとイエレン FRB 議長の記者会見も予定されている。
- 経済指標では 17 日(月)の 3 月 NAHB 住宅市場指数、3 月 NY 連銀製造業景況指数、20 日(木)の 3 月フィラデルフィア連銀製造業景況指数に注目したい。悪天候の影響が剥落したとみられる 3 月分のデータであり、米国経済の地力が試される。これまで市場は弱い経済データでも特殊要因として材料視しないことが多かったが、もはや悪天候を言い訳にすることはできず、事前予想との乖離に市場は素直に反応する可能性が高い。このほか、2 月分の鉱工業生産や住宅統計が発表となるが、前述の通り、天候要因により結果が歪む可能性があり、弱い結果への反応は限られるだろう。
- 欧州では 20～21 日に EU 首脳会合が開催される。域内では銀行監督一元化やギリシャへの融資実行等、議論が進んでいるが、いずれも今回の会合で重大な決定がなされる可能性は小さく、市場の関心は緊迫化するウクライナ情勢を巡り、同国への支援の実施やロシアに対する経済制裁等に集まろう。本邦では、19 日(水)に 2 月貿易収支があるほか、要人発言では同日に黒田日銀総裁、木内・佐藤日銀審議委員の講演が予定されているが、今週に金融政策決定会合を終えた後であり、大きな材料とはならないとみる。

	本 邦	海 外
3 月 14 日(金)	-----	・米 3 月ミシガン大学消費者マインド指数(速報)
17 日(月)	・3 月月例経済報告	・米 3 月ニューヨーク連銀製造業景況指数 ・米 2 月鉱工業生産
18 日(火)	-----	・米 FOMC(～19 日) ・米 2 月住宅着工
19 日(水)	・2 月貿易統計 ・1 月景気動向指数(確報)	・米 10～12 月期経常収支
20 日(木)	-----	・米 2 月中古住宅販売 ・米 3 月フィラデルフィア連銀製造業景況指数 ・EU 首脳会議(～21 日、ブリュッセル)
21 日(金)	休 場(春分の日)	-----

### 【当面の主要行事日程(2014 年 3 月～)】

米 FOMC(4 月 29～30 日、6 月 17～18 日、7 月 29～30 日)  
 EU 首脳会議(3 月 20～21 日、ブリュッセル)  
 欧州中銀理事会(4 月 3 日、5 月 8 日、6 月 5 日)  
 日銀金融政策決定会合(4 月 7～8 日、4 月 30 日、5 月 20～21 日)

以 上

国際為替部

深谷 公勝、多田出 健太、山崎 友紀

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egson.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年3月11日	今一度整理する経常収支の意味～「稼ぐ力」の誤解～
2014年3月10日	本邦1月国際収支などについて～年度赤字転落が視野に～
2014年3月7日	週末版(ECB理事会を終えて～予想外の「手ぶら」、完全なるゼロ回答を決定～)
2014年3月6日	最近の証券投資動向～スタートダッシュに躍じた日本株～
2014年3月4日	ウクライナ情勢がEU&ユーロ圏へもたらす影響などについて
2014年3月3日	ECB理事会プレビュー～「手ぶら」は想定し得ない情勢～
2014年2月28日	週末版
2014年2月26日	欧州委員会冬季経済予測を受けて～デフレの分析～
2014年2月25日	佳境を迎えるECBの情報収集～プレ・プレビュー～
2014年2月24日	G20財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年2月21日	ユーロ圏消費者信頼感指数やGDP稼働率、設備投資などについて
2014年2月20日	相次ぐユーロ高牽制の読み方～高コスト温存の代償として～
2014年2月19日	日本化を否定する独連銀理事講演の読み方
2014年2月18日	本邦10～12月期GDP統計に見る「実感なき景気回復」
2014年2月14日	週末版(ユーロ圏にとって期待インフレ率とは何か?～各種指標でみるユーロ圏の期待インフレ～)
2014年2月13日	混迷度を深めるECB政策運営～マイナス金利報道を受けて～
2014年2月10日	基礎的需給などで見る円相場～2013年国際収支を受けて～
2014年2月7日	週末版(ECB理事会を終えて～現状維持というよりも緩和先送り～)
2014年2月6日	「リスク回避のユーロ買い」の考察～「資本流出への防波堤」～
2014年2月5日	円安と株高の出自は違う～最近の為替・株式相場について～
2014年2月4日	ECB理事会プレビュー～3つの要素で判断する「次の一手」～
2014年2月3日	ユーロ圏、ソフトとハードの間に生じる「ねじれ」をどう考えるか
2014年1月31日	週末版
2014年1月30日	欧州系銀行の新興国向けエクスポージャーなどについて
2014年1月28日	最近の日経平均株価の下落などについて
2014年1月27日	新興国市場の大荒れと円相場、当面の見通しなどについて
2014年1月24日	週末版(ユーロ圏11月国際収支について～需給面で支えられるユーロ相場～)
2014年1月23日	日銀金融政策決定会合を終えて～CPIピークアウトへの布石～
2014年1月22日	IMF世界経済見直し改定～ユーロ圏のデフレ確率は10～20%～
2014年1月21日	BIS実質実効為替レートで見た直近の円相場について
2014年1月20日	最近のEONIA(ユーロ圏無担保翌日物平均金利)上昇について
2014年1月17日	週末版(対外直接投資と円相場について～為替への影響は両サイド～)
2014年1月16日	燃料だけではなく「円安→輸入インフレ」の実態
2014年1月15日	円キャリー取引の検証～外銀本支店勘定は5年ぶりの水準へ～
2014年1月14日	潜在成長率が半減するユーロ圏～ユーロ圏四半期報告書～
2014年1月9日	週末版(ECB理事会を終えて～「悪いこと」に慣れ過ぎているECB、政策変更のトリガーが視界不良に～)
2014年1月8日	ECB理事会プレビュー～デフレ懸念を横目に現状維持～
2014年1月7日	2014年の円相場の見直し、論点おさらい
2013年12月27日	週末版
2013年12月26日	2013年を終えて～プラザ合意以来の動きに挑む2014年～
2013年12月20日	週末版(動き出したユーロ圏単一清算基金(SRF)～主要論点の整理～)
2013年12月19日	FOMCを終えて～強まる「放って置けば円安」の地合い～
2013年12月18日	ユーロ圏労働コストから聞こえるデフレの足音
2013年12月17日	「アスム・センなき政策理事会」を考察する
2013年12月16日	最近の相場をどう解釈すれば良いのか
2013年12月13日	週末版(流動性逼迫とユーロ上昇、そして国債ウエイト問題などについて)
2013年12月10日	米7～9月期資金循環統計～米家計は約6年ぶりの貯蓄不足～
2013年12月9日	米11月雇用統計や年内taperingの行方などについて
2013年12月6日	週末版(ECB理事会を終えて～存在感を増す為替関連の問答～)
2013年12月5日	直近の対内・対外証券投資とドル建て日本株投資の過熱感
2013年12月4日	緩和観測は海外勢の希望的観測～春先に似る過熱感～
2013年12月3日	103円台と整合的な実質レート及び物価などを考える
2013年12月2日	ECB理事会プレビュー～現状維持も、リスクはM3か～
2013年11月29日	週末版
2013年11月27日	ECB、「次の一手」の整理～5つの選択肢を点検する～
2013年11月26日	ユーロ圏M3で見るユーロ相場の展望などについて
2013年11月25日	ECBも「連想ゲーム」に巻き込まれるのか
2013年11月22日	週末版(年金運用改革に係る雑感などについて～インフレ対策というよりも、諸外国対比の是正が主眼～)
2013年11月20日	本邦10月貿易統計などについて
2013年11月19日	最近の欧米資本フローから見る為替相場
2013年11月18日	再び挑むドル建て日経平均「150ドル」の壁
2013年11月15日	週末版(ユーロ圏7～9月期GDPなどについて～今後の焦点は加盟国間の成長率格差に～)
2013年11月14日	衆院解散表明から1年～「良いこと取り」から「平常運転」へ～
2013年11月13日	バイマン独連銀総裁による国債リスクフリーの否定を考える
2013年11月12日	ユーロ圏の主導するグローバルインバランスの拡大
2013年11月11日	11月ECB理事会について～ドラギ・ブットの芽生え?～
2013年11月8日	週末版
2013年11月7日	生保下期運用計画などからみる円相場の今後
2013年11月6日	欧州委員会秋季経済見直し～不安な内需主導シナリオ～
2013年11月5日	ECB理事会プレビュー～11月は現状維持も論点は多数～
2013年11月1日	日銀金融政策決定会合を終えて～市場出身審議員による警鐘は重要～
2013年10月30日	ノボニー発言の読み方などについて
2013年10月29日	2014年、ユーロ圏銀行同盟の一里塚に絡む不安
2013年10月28日	低下する円相場のポラリティとユーロ/ドルの警戒サイン
2013年10月25日	週末版(ユーロ圏固有のユーロ買い要因を考える～過剰流動性減少やドイツ市場の活況～)
2013年10月22日	Jカーブ効果を論じる時なのか?
2013年10月21日	勢いづく「敵失のユーロ高」の行方
2013年10月18日	外貨準備の民間委託報道などについて～「外貨準備の増加」は良いことか、悪いことか～
2013年10月11日	『2013年秋季IMF国際金融安定性報告書』について～分散化(fragmentation)の計量分析など～
2013年10月9日	2013年秋季IMF世界経済見直しについて
2013年10月8日	「火遊び」によるドル売りは買い場か
2013年10月7日	「2年で2%」の旗の降ろし方～日銀会合を終えて～
2013年10月4日	週末版(2大ドル売り材料を受けた為替相場の現状～ユーロは長期平均からも上離れへ～)
2013年10月3日	ECB理事会を終えて～芽生えるユーロ相場への高値警戒～
2013年10月2日	ECB理事会プレビュー～少なくとも期待するLTROアナウンス～
2013年10月1日	日銀短観(9月調査)～業況改善の裏で気掛かりなコスト環境～
2013年9月27日	週末版(対内証券投資を引き戻すカードはあるか～「期待に働きかける」局面を超えて～)
2013年9月26日	家計部門の外貨運用の現状と展望について
2013年9月24日	「決められないオバマ」はドル売り要因か?
2013年9月20日	週末版(13年6月末時点の本邦家計資産の状況～増加した内貨性リスク資産、減少した外貨性資産～)
2013年9月19日	FOMC(9月17～18日開催分)を終えて～4つの論点で考える～
2013年9月18日	欧米の証券投資動向と為替相場の関係などについて
2013年9月17日	次期FRB議長人事を巡る動向について